

発行日： 2025 年 3 月 2 日
 発行者： カトリック横須賀三笠教会
 TEL： 046-823-0042
 FAX： 046-823-1031

e-mail mikasa-church@aqua.ocn.ne.jp

とっけん てばな けんり しゅちよう い かた ぼじしよ なりてい じかく
 特権を手放し権利を主張する生き方～ポジショナリティの自覚～(1)

みかさきようかいしゅにんしさい はまさきまさみ
 三笠教会主任司祭 浜崎眞実

しゃかい ひたいしやうてき
 この社会は非対称的で、あらゆるところに
 けんりよくこうばい ふびようどう なか
 権力勾配があり、さまざまな不平等の中で
 い とっけん ひと どりよく
 生きています。そこで特権のない人が努力に
 ある けんりよくしゃ こうい え
 よって、或いは権力者からの好意を得ること
 とっけん て い きやうそう
 で特権を手に入れようと競争するのではな
 とっけん み とっけん
 く、特権を身につけている人がその特権を

あ の ゆうわく
 <荒れ野での誘惑>

いえす かつどう はじ まえ あ の あくま
 イエスが活動を始める前に荒れ野で悪魔
 ゆうわく う ものがたり ふくいんしよ しる
 から誘惑を受ける物語を福音書は記してい
 また い しやう せつ る か しやう
 ます(マタイ4章1-11節//ルカ4章1-13
 せつ ゆうわく しりぞ
 節)。そこでは3つの誘惑を退けます。それ
 せいじてきけんりよくてきたちばせい りよう
 は政治的権力的立場性を利用せず、そこか
 はな しやうちやうてき ものがた
 ら離れたことを象徴的に物語っていると
 よ
 読むことができます。
 いちばんめ いし ばん か しりぞ
 一番目に、石をパンに変えることを退けま

てばな びやうどうしゃかい みち あゆ
 手放すことで、平等社会への道を歩んでい
 おも
 けたらいいのだと思います。
 ぼじしよ なりてい せいじてきけんりよくてきたちばせい
 「ポジショナリティ(政治的権力的立場性)」に
 いしき なか せいしよ よ なお ころ
 ついて意識する中で聖書の読み直しを試み
 ました。

も ひと
 した。それは、たくさん持っている人がもた
 ひと あた きよひ だいあん
 ない人に与えることの拒否です。その代案
 ひと しやうう てばな
 は、人がそれぞれ所有しているものを手放す
 ゆた たいけん
 ことで、いのちの豊かさを体験できるという
 ふくいんしよ いつ ばん にひき
 ことです。それを福音書は五つのパンと二匹
 さかな ごせんにな ひと み ひとびと
 の魚で五千人の人が満たされたこと＝人々
 せいかつ わ あ
 がいのち(生活)を分かち合うこととして
 えが いえす ばん ふ
 描いています。イエスがパンを増やした

お 話 ではありません(マタイ14章13-21
節//ルカ9章10-17節//マルコ6章
30-44節//ヨハネ6章1-14節)。
次に退けたのは神を試すことです。高い
ところから飛び降りても天使たちが守ってく
れるはずだとの誘惑です。それは、周囲から
の評判を得ることの拒否です。人々の注目を
浴び、大きな賞賛を勝ち取るための行動
を退けたのです。それは神の名を使って
自らを正当化することの拒否でもあります。
そのことに対して福音書の中で代案として
描かれているのは、「しかし私は言う…」
(マタイ5章32節、39節、44節)との表現
です。そこでは、神の権威を持ち出したり
自分の主張の正しさの証明に神を登場さ
せたりすることなく、自らの考えを一人称
でストレートに述べます。また、癒しの物語
の中で、イエスは「私があなたの病を
癒し救ってあげた」とは言わないで、「あなた
の信仰があなたを救った」(マタイ9章22
節)と語ります。自らの評判を気にするの
ではなく、病のゆえに社会から疎外されて
いた人が居場所を回復することに関心がある
のです。
最後の三つ目は、権力の座に昇りつめる
ことを退けました。ヘンリ・ナーウエンは
「権力を福音宣教の有効な手段と考える
誘惑は、あらゆる誘惑の中で最強のもの」と
指摘します。そしてキリスト教の歴史を

振り返り、「神と隣人への奉仕のためなら、
権力を手にすることはいいことだ、と耳に
し、自分にもそう言い聞かせてきた」とも
述べます。具体的には、このような合理化に
よって、十字軍が結成され、宗教裁判が
行われ、植民地主義と連動した宣教活動の
もとで壮麗な聖堂が建てられました。しかし、
そこで人々は、果てしない良心のごまかしに
終始したと言います。貧しく無力になられた
イエスにならう者だと主張する人々によっ
て、権力行使が展開されているからです。
権力の座に昇りつめようとする誘惑は
福音書に幾つも描かれています。自分の息子
たちを権力ある地位に就かせようと願う
母親(マタイ20章20-28節)。あるいは
弟子たちの中で一番偉い者は誰かという
議論をしている場面(ルカ22章24-30節)
などがあります。それに対して代案になる
箇所は、ルカ福音書の「マリアの讃歌」が描く
社会です。そこでは「思い上がる者を打ち散
らし、権力ある者をその座から引き降ろし、
身分の低い者を高く挙げる」と歌われます
(ルカ1章51-52節)。権力ある者はその座
から引き降ろされて、座っていた「座」は
空っぽのままというのがポイントです。その
ことによって権力者の首のすげ替えではな
く、権力の座に誰も座ることなく空位にする
ことで、ピラミッド型の社会が崩れて平等な

かんけい む か あゆ しゅちよう
 関係に向かって歩めるとの主張です。もう
 ひとつ ふっかつ い え す ペ と ろ みたび わたし
 一つは、復活のイエスがペトロに三度「私を
 あい しつもん わたし ひつじ セ わ
 愛しているか」と質問し、「私の羊の世話を
 めい かしょ よ は ね しょう
 しなさい」と命じる箇所です(ヨハネ21章
 15-19節)。ここでは「年をとると、…
 い つ い
 行きたくないところへ連れて行かれる」(18
 せつ い さいご わたし したが
 節)と言われ、最後に「私に従いなさい」と
 めい リーダーとしてのペトロは、
 みずか ひと みちび みちび もの
 自ら人を導くのではなく導かれる者にな
 るということです。イエスに従う者は権力を
 つか たしや しはい したが
 使って、他者を支配し従わせるのではなく、
 と き よ と みちび
 「時のしるし」を読み取りどこに導かれてい
 しきまつ もと あゆ
 るのかを識別しそれに基づいて歩むことが
 もと
 求められます。
 みつつ ゆうわく しりぞ ひとつこと あらわ
 三つの誘惑を退けたことを一言で表す
 とっけん てばな い かた
 と、それは「特権を手放す生き方」です。それ
 けんそん くだ とっけんてき
 は謙遜だとかへり下るとかではなく、特権的

たちば たちば お
 な立場にいるならその立場から降りることで
 か な ん じよせい で あ ま た い しょう
 す。カナンの女性との出会い(マタイ15章
 21-28節)では、外国人で女性でもあるとい
 せつ がいこくじん じよせい
 うことで二重に疎外された人にとって、
 ゆだ や じん だんせい い え す とっけんてき たちば
 ユダヤ人男性であるイエスは特権的な立場に
 さいしょ うえ め せん たいおう
 います。最初は上から目線の対応ですが、こ
 じよせい とお とっけん こうし
 の女性を通して特権を行使するのではなく、
 あいて たいとう そんちよう まな
 相手を対等にみなし尊重することを学んだ
 い え す ほう がいこくじん
 のです。ここではイエスの方がこの外国人の
 じよせい で あ かんが たいど
 女性との出会いによって考えや態度が
 か つた
 変えられたことを伝えているのでしょう。
 じみんぞく そと おもむ て いる す し ど ん ち ほう
 自民族の外に赴いて、ティルスとシドン地方
 い しる いみしんちよう
 に行ったと記されているのは意味深長です。
 ふくいんしよ えが い え す とっけん こうし
 福音書が描くイエスは特権を行使することに
 ひょうばん え たちば りよう
 よって評判を得ることをせず、立場を利用し
 ひと こころ なか かいにゆう
 て人の心の中に介入することもしませんで
 がつごう つづ
 した。(4月号に続く)

がつきようかい いんかい ほうこく 2月教会委員会報告

てんれいれき ぎようじ かつどう I 典礼暦と行事・活動

ふくいんせんきようぶ かい ていれいかい
 3月 1日(土)福音宣教部会定例会
 ねんかんだい しゅじつ
 2日(日)年間第8主日
 きようかい いんかい てんれいぶかい
 教会委員会、典礼部会
 はい すいようび し じゅんせつ
 5日(水)灰の水曜日(四旬節)10:00
 し じゅんせつだい しゅじつ
 9日(日)四旬節第1主日
 もくそうかい
 黙想会

し じゅんせつだい しゅじつ
16日(日)四旬節第2主日
ぐ れ ご り お せい か いっしょ
グレゴリオ聖歌をご一緒に
きょうかいがっこう
教会学校

し じゅんせつだい しゅじつ
23日(日)四旬節第3主日
せいしよくうざ はまさきし
11:00～ 聖書講座 浜崎師
えいご み さ
15:00英語ミサ

し じゅんせつだい しゅじつ
30日(日)四旬節第4主日

がつ にち じゅうじか みち
4月 5日(土)十字架の道ゆき 10:00～

し じゅんせつだい しゅじつ
6日(日)四旬節第5主日

じゅなん しゅじつ えだ しゅじつ
13日(日)受難の主日(枝の主日)

せいもくようび しゅ ばんさん
17日(木)聖木曜日(主の晩餐)

ひじりきんようび しゅ じゅなん
18日(金)聖金曜日(主の受難)

ふっかつてつ やさい
19日(土)復活徹夜祭

ふっかつ しゅじつ
20日(日)復活の主日

ぱー て い ー
パーティー

ふっかつせつだい しゅじつ
27日(日)復活節第2主日

ちゅう せい にちかん み さ か い し じ かん き し だい し
(注)聖なる3日間のミサ開始時間は決まり次第お知らせします

II 報告

がつ きょうかいいいんかい
4月の教会委員会について

がつ かいさいいた がつ さいすたーと
4月には開催致しません。5月より再スタートいたします。

あ ん けー と よ こ す か まち
1. アンケート「横須賀はあなたにとってどんな街ですか？」

み さ しゅつせきしゃ たい あ ん けー と よ こ す か まち がつ にち
ミサ出席者に対するアンケート「横須賀はあなたにとってどんな街ですか？」を1月19日
にち にち にち がつ にち にち かい じっし やく めい かた かいとう
(日)、26日(日)、2月2日(日)の3回にわたって実施し、約90名の方から回答をいただきま
あ ん けー と きょうりよく かんしゃ
した。アンケートにご協力いただいたみなさんに感謝いたします。

あ ん けー と けっかぶんせき こんご あ ん けー と じっしちーむ ぶんせきさぎょう ま
アンケートの結果分析については、今後「アンケート実施チーム」の分析作業を待って、

お知らせいたします。結果の発表はいましばらくお待ちください。

2. 四旬節黙想会

講師:ドミニコ会 渡邊裕成神父さん

テーマ:イエスの福音を生きる

…… 押田成人師との出会い、高森草庵での生活
高森草庵が教えてくれたもの ……

日時 3月9日(日)11:00~14:00

黙想会 11:00~12:30

交流会 12:30~14:00(講師を囲み軽食を摂りながら)

八ヶ岳のふもとの「高森草庵」で「遊行の巡礼者」と呼ばれる押田成人師(1922年~
2003年)の精神を受け継いで有機農耕の生活を続けていらっしゃるドミニコ会の渡邊裕成
神父さんに「イエスの福音を生きる」と題して黙想会ご指導をいただき、基地の街、横須賀で
生活し、フェンス1枚で米海軍横須賀基地に接する教会に所属するわれわれにどう生きたら
よいのかアドバイスをいただきたいと思います。

3. 4月の外部講師講演会・イベント

(1) 原子力空母がいる横須賀に住むとはどういうことか?
…… 住民アンケート報告会・原子力艦の防災問題説明会 ……

① 市民はどう考えているのか?

原子力空母の配備を問う3,000人市民アンケート報告

② 原子力空母は安全か?

原子力艦の防災問題を考える

説明者 原子力空母の母港化の是非を問う住民投票を成功させる会

非核市民宣言運動・ヨコスカ／ヨコスカ平和船団

日時 4月6日(日)11:00~13:00

説明会 11:00~12:00

交流会 12:00~13:00

昨年、三笠教会では「原子力空母2024キャンペーン地域集会」を開催しましたが、このたびこれに関連するふたつの報告書・資料がまとまったので、作成にかかわられた市民団体の関係者から報告、説明いただき、原子力空母がいる横須賀に住むとはどういうことを意味するのか、市民のみなさんとともに考えたいと思います。

(2) わたしたちは横須賀の街でこんなことをしています
……2025年度年間テーマ「横須賀の街に参加しよう！」開幕イベント……

説明者 原子力空母の母港化の是非を問う住民投票を成功させる会
非核市民宣言運動・ヨコスカ／ヨコスカ平和船団
エネルギー問題を考える横須賀の会

日時 4月13日(日)11:00～13:30

説明会 11:00～12:00

交流会 12:00～13:00

三笠教会では2024年度年間テーマ「横須賀の地政学的課題とはなにか？」を受けて、2025年度年間テーマ「横須賀の街に参加しよう！」を企画しており、開幕にあたって、われわれが横須賀の地政学的な課題に取り組んでいる市民活動に参加して経験学習できるよう、関係する市民団体に横須賀の街でどのような活動をされているのか紹介していただく機会を持ちたいと考えます。

グレゴリオ聖歌を一緒に

日時 : 3月16日(日)11時～11時30分

場所 : 聖堂にて

形式 : 一緒に唱えていただくまたはお聞きいただくだけでも良いです

当日テキスト(日本語付きの楽譜)を配布いたします

ご参加を心よりお待ちしております

〈主催〉シナピス(からし粒の意) お問い合わせ先: 藤原 千賀代

ふくいんせんきょうぶかい
福音宣 教部会からのお知らせ
よこすか まち さんか
…… 横須賀の街に参加しよう！ ……

め お たか お
名生 尚雄

はじめに

わかっていたことではあるけれど、チー^{ちーむ}
の後継者^{こうけいしゃ}をさがそうとすると、ほんとうに人^{ひと}
がいなくなってしまうんだなあと思^{おも}いま
す。でも、おなじメンバ^{めんばー}でずっと続けるの^{つづ}
は決してよいことではないし、やはり人^{ひと}は代^か
われることと、疲れたときには休めることが^{つか やす}

いいと考^{かんが}えます。そんなわけで、福音宣 教^{ふくいんせんきょう}
部会^{ぶかい}の運動^{うんどう}は、教 会 委 員 会 全 体^{きょうかいいいんかいぜんたい}のなかで
企画^{きかく}、検 討^{けんとう}してもらって、引き続^ひき継^{つづ}続^{けいぞく}する
一^{いっ}方^{ぽう}、専任チー^{せん にん ちーむ}ムとしての福音宣 教部会^{ふくいんせんきょうぶかい}は
いっ^{かい}たん解^{さん}散^{さん}することとなりました。と言^いう
こ^{こん}とで今^{かい}回は、4年間の回^{ねんかん}顧^{かいこ}と展^{てん}望^{ぼう}です。

ねんかん かいこ てんぼう
4年間の回顧と展望

この4年間で「ナザレの人イエス^{ねんかん なざれ ひと い え す はじ}が始^{はじ}めた
『神^{かみ}の国^{くに}運^{うん}動^{どう}』をうけつぐ教 会^{きょうかい}」に近^{ちか}づけ
た^{まな}のだろうか。「学^{まな}びな^{おし}」はどうか。
「体^{たい}験^{けん}的^{てき}参^{さん}加^か」はどうだったのだろうか。
大^{おお}きな^{わく}枠^{ねん}はもう60年^{まえ}も前^{だいに}の第^ぼ二^ちバチ^{かん}カン
公^{こう}会^{かい}議^ぎで基^き本^{ほん}的^{てき}には変^かわっているはずだけ
れども、人^{ひと}の考^{かんが}えはそ^{かん}んなに簡^{かん}単^{たん}に^か変わ^いれ
るもの^いじゃなくて、われわれはや^{いま}はり、今^{いま}あ
るが^{いま}ま^まで「まにあ^まっている^あんだ^んだ^なあ」という
の^{ねんかん}が^{かん}この4年間の感^{かん}想^{そう}です。
「考^{かんが}え^かた」からさらに「ラ^{らい}イ^ふフ^すス^たイ^いル」の
へん^{へん}こう^{こう} 変^{へん}更^{こう} まで踏^ふみ込^こむと、教 皇^{きょうこう} フ^ふラ^{らん}シ^しス^すコ^この
で 変^{へん}更^{こう} まで踏^ふみ込^こむと、教 皇^{きょうこう} フ^ふラ^{らん}シ^しス^すコ^この
「出^でか^きける^{かい} 教 会^{しのだす}」、シ^{あゆ}ノ^{あゆ}ド^{あゆ}ス^{あゆ}の「と^ともに^と歩^{あゆ}む」
という呼^よび^よかけ^よにもか^でか^でかわ^でらず、「出^でか^でける」

「と^{あゆ}もに^{らいふ}歩^すむ」というラ^{らい}イ^ふフ^すス^たイ^いル^{いる}スタイルにはと^とて
もな^でれていない。われわれは「出^でか^かける」^{あゆ}「と^ぐもに^{たいてき}歩^いむ」というこ^いとが具^い体^み的^みにな^いにを意^い味^み
する^{たい}のか^りすら、体^り験^{よう}的^{かい}には了^り解^{かい}して^りい^{かい}ない
の^{げんじょう}が現^{げん}状^{じょう}ではないで^りしょうか。

じゃあどうしたらいい^{いい}んだらう？

「学^{まな}びな^{たい}お^{けん}し」と「体^ひ験^{つづ}的^{つづ}参^{ぜん}加^{てい}」は引^ひき続^{つづ}き
続^{つづ}けるとして^{ぜんてい}も、や^ははり前^{ぜん}提^{てい}とな^なるな^なか^かま^まが
い^はないこ^こには始^はま^まら^らない。な^なか^かま^まづ^づくりの
た^{かい}め^ぎには「会^む議^り」では無^{たい}理^わで、ど^どこ^こか^かに^に対^{たい}話^わ
し、交^{こう}流^{りゅう}する場^ばを作^{つく}ら^らないわ^わけ^けにはい^いけ^けな
い^{ねんかん}とい^{かん}うこ^ことが4年間で^{かん}い^{かん}ち^{かん}ば^{かん}ん^{かん}感^{かん}じ^{かん}た^{かん}こ^こと
です。

もうひと^きつ^でづ^でいた^でこ^こは、「出^でか^でける」^でと

もに歩む」ということは、「かわりあいになる」という「立ち位置」をとれるか、全 かわらないかが分かれ道じゃないかということです。

4年間で、われわれはフェンス1枚で米海軍基地に接する、おそらく日本で唯一の教会だということはよくわかりました。

去年の年間テーマのことはとして、対外的には「横須賀の地政学的課題とはなんだろう？」という表現にしたけれど、これ

はわれわれにとっては「地政学的召命」ということばがいちばんぴったりするのではないのでしょうか。ここに三笠教会があるってことはだてじゃないんだ。この召命にかかわりあいになれるかどうかは問われていることなのではないのでしょうか。

去年は、三笠公園の「ピースフェスティバル」に参加したり、2回目の「横須賀基地ウォッチング」を実施したりで少しだけ「かわりあいになる」スタートは切れたのかなと感じています。

おわりに

基本的には「時が満ちるのを待ちながら」ということになるのでしょうか。日本自体が人口減少社会になっているのだから、教会もそれぞれの役割を分担できるほど人はいなくなるわけで、おたがいに複数の役割をシェアしあいながら進むほかないのかという気がしています。

この4年間、部会の運動を通じて、多くの

人と出会え、知りあいになれたことは幸運でした。やはり広く視れば、日本全体だって、横須賀の街にだって「まにあっていない人」はたくさんいるんだなと気づきました。そんな人たちとネットワークを組んで、「出かけ」「ともに歩め」たらいいなと思っています。これからよろしくお願いします。

ぐんてんほう よこすかし ばしよ よ
「軍転法」と横須賀市という「場所」に寄せて

さいとう さ ゆ り
齊藤小百合

ねん がつ みかさきょうかい まね
2025年8月に三笠教会にお招きいた
はなし
だき、お話をさせていただきますことに
つづ ぐんてんほう きゅうぐんこう
続いて、2月9日には、「軍転法(旧軍港
と し てんかんほう はなし
都市転換法)」をめぐってお話をさせてい
きかい ちょうだい ちょうさ
ただく機会を頂戴しました。まだまだ調査・
けんきゅう た き
研究が足らなくて、むしろ、聞いてくださっ
かたがた かつどう おし
た方々にこれまでの活動を教えていただく
おお こんかい
べきことのほうが多いのです。今回も、その
つうかん
ことを痛感しました。
こんかい はな なか とく
今回、お話しさせていただいた中で、特に
きょうちょう
強調したかったのは、こんなことです。
げんざい にほん にほん しゃかい
現在、日本で、そして、日本(のとりわけ社会
しはいそう つよ えいきょう う べいこく
支配層)が強く影響を受けている米国で、
じゅうらい ほう ほう おも せいじ
「(従来)法を法とも思わない」政治、あ
じぶん ほう せいじ
たかも「自分が法だ」といわんばかりの政治
とお
というのがまかり通ってしまっているように
おも ほんらい ほう
思われるけれど、「本来は」法は、わたしたち
つく ほんらい
が作っていくはずのもので、この「本来は」と
と もど
いうことを取り戻したい、といったことでした。
ほんらい ほう

「本来は」法って、どんなもので、どんなふ
つく てん
うに作られるべきものでしょうか。その点で
こえ き
まず、「わたしたちの声を聴かずに、わたした
き
ちのことを決めないで！(Nothing about
us, without us.)」ということを挙げたい
おも じゅう みんしゅてき しゃかい
と思います。自由で民主的な社会における

ほう しゃかい い
法は、この社会でともに生きるひとたちすべ
およ ほう
てに及びますから、「法」はわたしたちの
せいかつ
生活にかかわる、「わたしたちのこと」です。
き
その「わたしたちのこと」を決めるには、わた
こえ き
したちの声が聴かれなければならないです。
ぐんてんほう ぐんてんほう せいいてい
「軍転法」についていえば、「軍転法」を制定
ほう よこすかし
するには、この法は横須賀市をはじめとした
きゅうぐんこう と し てきょう
4つの「旧軍港都市」に適用されるのだから、
しみん こえ じゅうみんとうひょう
その市民たちの「声」を住民投票とい
かたち き
う形で「聴く」ということをしなければなら
にほんこくけんほう じょう
ない、ということが日本国憲法95条に
きてい
規定されているというわけです。
きよねん はまさきしんぷ
去年8月には浜崎神父とともに、わたしも
よこすかへいわせんだん じょうせん
「横須賀平和船団」に乗船させていただきました
じえいたい き ち べいかいぐん
ました。自衛隊基地や米海軍はもとより、こ
ひ いたりあ ふらんす かんせん ていはく
の日にはイタリアやフランスの艦船も停泊
かんさいき の ぐんかん
し、これみよがしに艦載機を乗せた軍艦も。
ぐんてんほう だい じょう きゅうぐんこう と し
「軍転法」第1条には、「旧軍港都市を
へいわさんぎょう と し てんかん へいわ
平和産業都市に転換することにより、平和
にほんじつげん りそうたっせい きよ もくてき
日本実現の理想達成に寄与することを目的
ほうりつ もくてき かか
とする」と、この法律の目的が掲げられてい
へいわ いみ か
ます。「平和」の意味が変わってしまったかの
げんだい
ような現代。それでも、いや、だからこそ、わ
へいわ いみ て
たしたちは平和の意味をわたしたちの手にと
つうかん
りもどさなければならないと痛感しました。

さいとう さ ゆ り さくねん つづ
齊藤小百合さんには昨年8月に続いて
ぐんてんほう かんが ほう ほう
『軍転法』から 考 える、『法が法であるた
ひつよう ほうきはん
めに』必要なこと「…『法規範』というものが
ゆうかい げんだいしゃかい だい
融解していく現代社会で…」と題して

こうえん め っ せ ー じ よ
講演いただき、さらにメッセージを寄せてい
こんご よこすか まち
ただきました。今後とも横須賀の街にかかわ
ほうてき りかい しえん
る法的な理解についてご支援をいただけた
ねが
らと願います。

ふくいんせんきょうぶかい め お た か お
(福音宣 教 部会 名生尚雄)

し ん と きんきょう
信徒の近況

き てん
帰 天

がつ にち
2月6日

まりあ どみにか
マリア・ドミニカ
みずの かずこ
水野 和子 さん

がつ にち
2月8日

あん と にお
アントニオ
うつみ まさひこ
内海 雅彦 さん